

独立行政法人国立病院機構
沖縄病院 広報誌

発行日
平成28年10月1日
第34号
発行所
沖縄県宜野湾市我如古3丁目20-14
編集発行 広報委員会



基本理念

患者さまの立場を尊重し高度で良質の医療を提供します



知念岬：当院から南西に約12km。青い空とはるか彼方に広がる水平線を眺める景勝地。体育センターの裏手に広がる知念岬公園がある。緑の芝生が美しい散策路が整備されていて、岬の先端からは南部の大海原と沖に浮かぶコマカ島や久高島が望める。世界遺産の斎場御嶽も近く、初日の出スポットとしても有名で、元旦には多くの人を訪れる。

運営方針

- ① 政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
- ② 患者さまの視点に立った、温かく思いやりのある接遇
- ③ 健全な経営基盤の確立
- ④ 安心して療養に専念できる快適な環境
- ⑤ 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実



表紙の植物：コスモス(イエローキャンパス)／学名／Cosmos(Yellow Cumpus)／キク科コスモス属／明るい黄色で中心部に白の蛇の目模様があり、花径7センチ程度。秋咲き。日本オリジナルのユニークな品種で、1957年、佐俣淑彦氏により作り出された。イエローキャンパスとは、「学園を彩るコスモス」を意味している。

目次

- 『ぬちぐすい』(命薬)
～チーム医療と(ちむくくる)で
温かい医療を提供しよう～
院長 川畑 勉 2
- ぎのわんシティFM開局 3
- 西病棟夏祭りを終えて 4
- ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル
ハートフル・コンサート! 5
- 新戦力紹介 6

ロゴマークの意味



南国沖縄のイメージを表現する為に、原色(はっきりとした色)を基調とし、ベースは沖縄 okinawa の“O(オー)”を表しています。肉太い赤で太陽を表現。中は波をブルーで表し、全体として健康を象徴する人間の笑顔をかたち取っています。



『ぬちぐすい』（命薬）

～チーム医療と（ちむぐくる）で温かい医療を提供しよう～

国立病院機構沖縄病院 院長 川畑 勉

うだるような暑さもようやく和らぎ、沖縄も秋の気配となって参りましたが、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、冒頭の標語（ぬちぐすい）は今年度の当院の運営方針です。今年の秋の国立病院総合医学会のサブテーマにもなっております。**ぬちぐすい**とは沖縄のことば（島くとぅば）で、**心が癒されることや感銘を受けたことの総称**をいいます。人から優しくされたこと、親の愛情、おいしい料理、感動を受けた音楽や芸術などすべてが**ぬちぐすい**です。このように意味の範囲がとても広い言葉です。もちろん、医療の世界にも使われます。

当院の基本理念は、『患者様の立場を尊重し、高度で良質の医療を提供します』です。当院では**高度で良質の医療**をすべての患者様に提供をと考えているのですが、ぬちぐすいの中には必ずしも高度な医学的技術や看護技術・能力の高さを必要条件としているものではありません。心のこもった医療の提供（**ちむぐくる**）によって患者さんが当院で治療を受けて良かったと思っただけならばそれもまた**ぬちぐすい**なのです。そのようなぬちぐすいの提供こそが経営目標の達成の近道にもなると思っています。職員全員が『安全・安心・信頼・断らない』を常に意識した病院づくりをめざします。

さらに、今年目標である『**本館の建て替え**』、**難難病医療拠点病院・結核の最終拠点病院**に引き続く、『**肺癌拠点病院**』を確立し、今年開設した『**脳・神経・筋疾患研究センター**』を発展させ、沖縄から世界へ羽ばたく一歩にしたいと考えています。

ゆたさるぐとぅ・うにげー・さびら（よろしく願いいたします）

平成 28 年 10 月吉日

「ぎのわんシティFM開局」

～沖縄病院からの情報発信～



管理課長 山本 賢一

宜野湾市において2局目となるコミュニティ放送局を平成28年8月2日に開局するというので、当院医師へ番組制作の協力をお願いしたいとの依頼が平成28年6月にありました。院長に相談したところ「是非やりましょう」と快諾！院長から医局へ発信していただいたところ先生方も快諾!!院長を筆頭とし、先生方が是非当院から情報発信したいという強い思いがうかがえました。その後、7月にぎのわんシティFM関係者の方が説明に来られた際には、河崎外科部長と藤田内科医長が説明を聞かれ、その内容を医局にも伝えていただき、まずは週1回の放送から始めることとなりました。放送日は毎週月曜日の12時～13時の間の10分～15分間の枠をいただき、第一回目の放送は8月8日(月)となりました。最初は「沖縄病院の歴史」を院長が話されるということで、収録は生放送 or 先録りどちらでもよいということでしたが、まずは先録りを選択し、8月5日(金)に収録をしてきました。打ち合わせ時にFMの局長が高校の先輩であることに院長が気づき、収録前に話が盛り上がったため、収録で話すネタが尽きるのではと心配しておりましたが、その心配をよそに軽快に収録をする院長の姿がありました(※以下の写真は収録風景です)。



(左から川畑院長、私、FM局長)

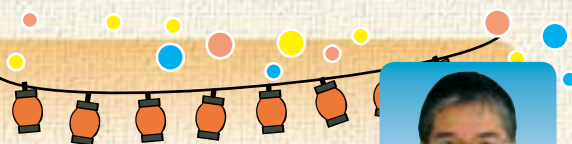
今後も先生方を中心とし、コメディカルにもご協力いただき、色々な情報発信が出来ることを期待しております。また、生放送に最初に挑戦するのが誰かも興味津々です(笑)
最後に、お声を掛けていただいた「ぎのわんシティFM」の関係者の方々にお礼を申し上げますと共に、当局の益々のご発展をお祈りしております。

ぎのわんシティFM (周波数: 81.8MHz)

～第二回目以降の放送～

8/15(月) 河崎外科部長、
8/29(月) 樋口総合診療科部長

8/22(月) 大湾副院長、
9/5(月) 渡嘉敷神経内科部長



西病棟夏祭りを終えて

療育指導室
坂本 武行

今回、新病棟になって第36回目の西病棟夏祭りを開催することが出来ました。

昨年は病棟が立て替えということで開催することができませんでした。新病棟で初めての開催場所で不安もあり、夏祭り実行委員会を開き、やぐらの場所やテントの場所・配置等を検討して実施することが出来ました。

当日は、会場に5店(いっせんまちや、飲み物屋、かき氷、いなりチキン・アメリカンドッグ)夜店を出していただき、食べたり飲んだりする人や会話を楽しんでいる様子が見られました。アトラクションとして、院内保育園の子どもによるエイサーを始めに、沖縄病院職員で構成し活動している太鼓クラブによる演舞、カラオケ大会、ガラモンズ演奏、県内外で活動している園田青年会のエイサーがアトラクションとして出演していただき大変盛り上げていただきました。夏祭り実行委員長の挨拶、進行の司会も患者様が行い「緊張しました」「以前よりうまくできなかった」と言いながらもスムーズに挨拶や司会を進めていました。カラオケ大会では、出演する人を患者、家族、職員、ボランティアといろんな方に歌っていただき日頃の練習や十八番を披露していただきました。審査委員として病院の幹部にお願いし、各賞を準備して審査委員長賞に患者さんが選ばれ喜ばれていました。

イベント最後に、園田青年会によるエイサーの演舞を披露していただきました。太鼓の音三線の音が会場に響いて、会場の人と一緒に最後力チャージを踊って



盛り上がり終了しました。夏祭りを西病棟の患者・家族はもとより地域住民や他病棟からの患者も参加し手を叩いて喜ばれていた様子が見受けられました。また職員も楽しむ事が出来ました。

参加総数は約285名の方の参加がありました。

ボランティア、職員のたくさんの方の協力で楽しい夏祭りが無事終了しました。

最後に、暑い中、関係部署の荷物の運び出しから会場設営、片づけまで協力していただき、不安もありましたが、皆さんの協力で無事終了することが出来ました。また、今回も多数のボランティアの協力が無いと開催することが難しいことを痛感しました。

オール沖縄病院で作り上げてきた歴史を感じます。

私の好きな言葉で「継続は力なり」、看護部、事務部、中央監視室、栄養管理室、IT管理室等、琉球病院(テント借用)の協力、すべての方に感謝いたします。ありがとうございました。



ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル ハートフル・コンサート!



7月11日(月)18時45分から、沖縄セルラーさんのご厚意により2年ぶり4回目のニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル・ハートフル・コンサートを開催しました。

今回4回目ですが、初めての平常日での実施ということもあり、当日に準備作業から撤収作業まで実施することとなりました。外来患者様が多少いらっしゃる中準備を開始しました。急患が来たらどうしようか?配膳車は通れるのか?色んな不安がありました。皆さまのご協力のおかげで準備は完了することができました。

無精な私は、日ごろ、本格的なクラシック音楽を耳にすることは全くなく、曲の説明を受けても、ピンときませんでしたが、それでも何曲かは耳にした曲もあり、サラサーテ作曲のツィゴイネルワイゼンは、中学に入学した時教科書で習ったのを思い出しく思いました。もちろん生演奏とかではなくLPレコードでしたが。

その後CDが登場し、デジタル時代になりましたが、次第にCDも売れなくなり、今時の音楽は、データ配信が主となっていると聞きます。スマホでダウンロードして聞く時代。時代の流れを感じます。アナログレコード世代の私はとまどうばかり。

患者様やご家族がどのくらい聴きにきてくれるかも心配されましたが、ベッドの方、車椅子の方も含め多くの方々が聴きにきてくださいました。演奏は通常45分のところ1時間となり、内容も充実した内容でした。患者様の体調が心配されましたが、特に気分を悪くされた方もなく、あっと

いう間の1時間でした。ラストの威風堂々では拍手が巻き起こりました。

プロの生演奏を間近で聞くことができ、よい気分転換となりました。

最後の患者様を代表して挨拶された言葉に場内の皆が感動していました。コンサートを実施して頂きました楽団のメンバーの皆さま、企画を提案していただいた「宣伝」の皆さま、会場づくりをしていただいたスタッフの皆さま、準備作業、後片付けを手つだって頂きました病院職員の皆さま、大変お疲れさまでした。本当にありがとうございました。皆様の心遣いこそハートフル・コンサートにふさわしいものとなりました。

2年後の次回もまたきっとよいコンサートになることを願いつつ。

庶務班長 四丸 公一

